

■ 会員室及び特別会議室



1階の「会員室」は「談話室」とも称して、丸テーブルと心地良いソファが並べられ、協会会員の打ち合わせや懇談の場として利用された。その1画にはカウンターが据えられコーヒーなどが提供される「喫茶グリル砂防」があった。



「会員室」の奥には螺旋階段があり、これを登ると「中2階」とも言われた「特別会議室」があり、理事会などの重要な会議が行われた<sup>1)</sup>。

■ ガラスとレリーフ

特別会議室の左手には、縦1.8m、横3m、厚さ10mmの強化板ガラスに砂防堰堤等を彫り込んだガラス絵が4枚嵌めこまれた。(現在は、砂防会館本館1階 Platz SABOに展示)

これらは、建築借入金完済した昭和42年(1967)砂防会館建設10周年記念として制作された。



「会員室」の壁に歴代会長5人と副会長2人の銅板レリーフが掲げられた<sup>2)</sup>。



■ 砂防会館の題字

砂防会館建築の借入金を完済した昭和42年(1967)に金文字で本館正面入口と会館上部につけられたこの題字は書道の大家、大宮森次氏(号は雲溪<sup>6)</sup>)によるもので、赤木の著書「砂防一路」、「赤木正雄先生追想録」の題字も彼の書である。



本館上部・別館上部の題字

参考文献

1) (一社)全国治水砂防協会：砂防協会と砂防会館、2018.5

2) (社)全国治水砂防協会：砂防協会の至宝、1988.12

3) 風間和夫：寿像建立の経過報告、赤木正雄博士寿像除幕式および記念式典、砂防と治水 復刊第9号、1972.3

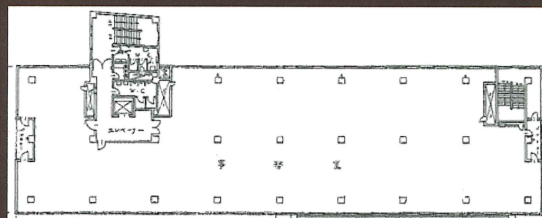
砂防一路シリーズ第8回

砂防会館(旧本館)の施設等

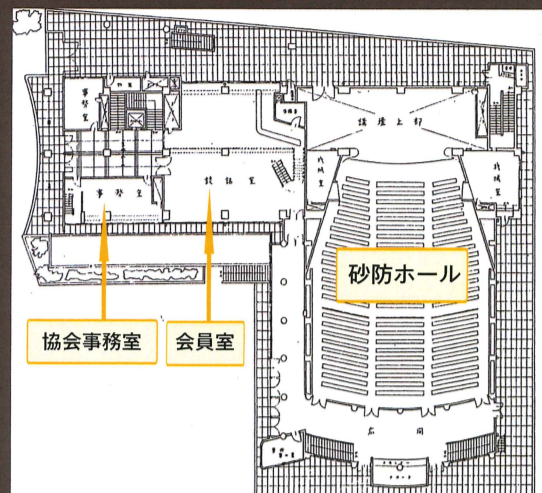
■ 砂防会館

砂防会館は5階建ての本館と砂防ホールで構成されている。本館は貸し室・貸し会議室として活用された。砂防ホールは砂防協会の総会や促進大会、講習会などに使われたが、演劇等多様な利用にも供された<sup>1)</sup>。

■ 会館平面図



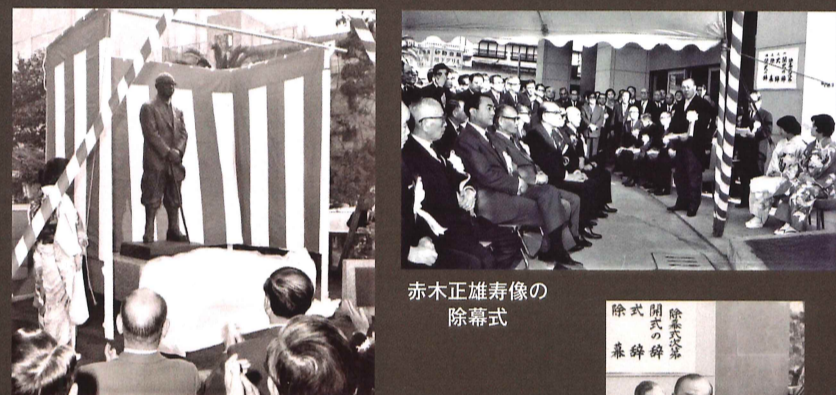
2~5階 貸室・会議室



1階 協会事務室・会員室・砂防ホール<sup>1)</sup>

■ 赤木正雄の銅像

砂防会館を背負うようにしてある赤木正雄の銅像は「赤木スタイル」とも言われる現場視察の姿で生家がある豊岡市を向いて立っている。会員から赤木の功績を顕彰する寿像建立の声が挙がったが、赤木は断り続けた。しかし、赤木が病で倒れた時、期せずして寿像建立の動議が理事会及び評議員会で決議され、赤木の了解を取るすべもない状況で寿像建立は決定された<sup>3)</sup>。



赤木正雄寿像の除幕式

制作は、日本彫刻界第1人者の清水多嘉示芸術院会員<sup>4)</sup>。題字は佐藤尚武元参議院議長に依頼した。そして、寿像の横に田中角栄会長の撰文が記された。

除幕式は昭和46年(1971)12月、寿像の前で行われ、引き続き砂防ホールで式典が行われたが赤木は病院加療中で、出席はかなわなかった。



佐藤尚武元参議院議長の題字

田中角栄会長の撰文

■ ゆかりの石と匂いスミレ



銅像建立の際に「地方砂防人の真実の心を現す一助」として赤木にゆかりの深い河川の自然石を、47都道府県と赤木の故郷豊岡市から供石を願い、計48個の石を銅像の台座周辺に配列している。

赤木正雄銅像

48個のゆかりの石 現在の配置



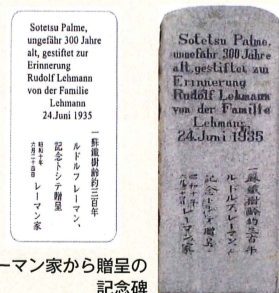
赤木がヨーロッパから持ち帰り、豊岡市の生家に植えられていた匂いスミレ<sup>5)</sup>が寿像の傍らに植えられ、毎年3月~5月頃紫の花を咲かせ寿像に香りと彩を添えている。



100年前に赤木が持ち帰った匂いスミレ

■ 蘇鉄(そてつ)

砂防会館の車寄せの前に8本と向かって右手に4本の見事な蘇鉄があった。(現在は、別館前に移植されている)砂防会館敷地の元の所有者であるドイツ東亜細亜協会、現公益社団法人オーアアゲー・ドイツ東洋文化研究協会)の敷地に植えられていた蘇鉄であり、この蘇鉄とその由来に関する記念碑も土地の附合物として砂防協会の所有となった。



レーマン家から贈呈の記念碑



砂防会館 旧本館前の蘇鉄(そてつ)

碑文には「蘇鉄樹齡約300年 ルドルフ・レーマン、記念トシテ贈呈 昭和10年6月24日 レーマン家」と記されている。蘇鉄は現在樹齡400年近くを数えることとなる。

ルドルフ・レーマン<sup>7)</sup>

■ グリル砂防

地下1階にはグリル砂防和食堂を開設し、一般の人にも利用され、また珍しかった洋食が親しまれた。また当時、都内の宿泊所は十分ではなかった為上京する会員のために宿泊室も用意された。その後、宿泊機能が不要になると会議室として活用された<sup>1)</sup>。



グリル砂防

会議室

宿泊室

次回は「砂防ホール」

4) 講談社：日本人名大辞典、2003.5

5) 朝日新聞社：朝日百科、植物の世界5.6、1997.10

6) 大宮森次：雲溪書業六十年(丙申廬詩鈔)、杉山製本紙工有限会社印刷製本、1972.8

7) Carl von Weegmann und Robert Schinzinger:Die Geschichte der OAG-1873 bis 1980-OAG, 1982

(一社)全国治水砂防協会 赤木記念館 作製 砂防図書館 協力